

高田城(鮫ヶ城, 関城, 高陽城) (県指定史跡, 続百名城) (上越市本城町)

(高田公園)

徳川家康の六男、松平忠輝の居城として天下普請によって造られた。城地の縄張りと工事の総監督は忠輝の舅の伊達政宗である。

高田城は、高田平野にある菩提ヶ原に築かれた平城である。約 230 メートルから約 220 メートル四方の本丸を取り巻くように二ノ丸、南に三ノ丸、北に北の丸を配し、関川、青田川などを外堀として利用した。すべての曲輪に土塁が採用され、石垣は築かれなかった。低湿地に築城されたため排水設備が重視され、城地には現在の技術水準から見ても遜色ない暗渠が張り巡らされていた。天守はなく、1614 年に 3 重 3 階の三重櫓を建てて天守の代用とした。当時の三重櫓の外観は不明で、江戸城の富士見櫓に似た外観であったと伝えられている。

明治以降、陸軍第 13 師団の駐屯地司令部として使用するために大規模な土塁の撤去、堀の埋め立てが行われ、旧城地の東半分は旧状をとどめていない。本丸を含めた西半分には堀、土塁の一部が残されており、現在は公園として整備されている。

越後高田藩の藩庁が置かれた。

- 1610 年 - 徳川家康の六男、松平忠輝が信濃川中島から福島城に 60 万石で入封。
- 1614 年 - 忠輝が福島城を廃し、高田城を建築。
- 1616 年 - 忠輝改易。酒井家次が上野高崎 10 万石から移封 (10 万石)
- 1618 年 - 家次の子・忠勝が信濃松代に転封。松代藩主松平忠昌が高田 25 万 9 千石となる。
- 1623 年 - 忠昌、越前福井藩 50 万石を相続。高田から移動。
- 1624 年 - 松平光長が 26 万石で立藩。
- 1665 年 - 高田地震により建造物倒壊。三重櫓を建設。
- 1681 年 - 越後騒動により、光長改易。

(この間、天領。信濃の大名が 2 人組ずつ一年交代で城代。)

- 1685 年 - 稲葉正往が相模小田原 10 万 2 千石から移封、10 万 3 千石。
- 1701 年 - 稲葉正往、下総佐倉に国替え。佐倉の戸田忠真が交換移封 6 万 8 千石。
- 1710 年 - 戸田忠真、下野宇都宮に移封。松平定重、伊勢桑名から移封。11 万 3 千石。
- 1741 年 - 松平定賢、陸奥白河に移封。
- 1742 年 - 榊原政永が播磨姫路から 15 万石で入封。

創藩当時の高田藩は親藩の大藩である越前福井藩と共に、加賀前田藩を丁度挟むような形で押さえ込む配置となり、幕府にとって重要な位置づけとされていたが、泰平の世が続く、前田家と将軍家も縁戚を重ねるなどしたため、次第にその役割は小さなものとなっていった。元来気候の厳しい北国であること、松平忠輝の改易や越後騒動など相次ぐ事件の舞台であったことなどによって、幕府や諸大名にとって高田藩は負のイメージを抱かせるものとなり、江戸中期以降はしばしば親藩、譜代大名で不始末を犯した大名の懲罰的な転封先、いわば「座敷牢」のような位置づけが強くなった。

Wikipedia による



再建した高田城三重櫓



田城本丸跡

